

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備えた知徳体のバランスのとれた生徒を育てる教育をめざす。

- 1 生徒が学ぶことの大切さ、自身の成長を実感し着実に目標に向かって進む精神力、進路実現できる確かな学力、生涯にわたって学び続ける学力を育成する。
- 2 互いの違いを認め合い、社会生活を送ることのできる豊かな人間性、コミュニケーション力を育成する。
- 3 「行きたい学校」「行かせたい学校」として地域から信頼され、地域教育の拠点となる開かれた学校をつくる。
- 4 共生推進教室の仲間と「ともに学びともに育つ学校」、規律ある、安全で安心な学校をつくる。

2 中期的目標

1 自らの進路を切り開くことのできる「確かな学力」を育成する

(1) 授業力の向上を重点課題とし、総合学科として特色ある授業づくりのさらなる充実に取り組む。

ア 相互に授業力を高めあえる校内研修を行い、生徒が主体的に学ぶ授業を展開する。

授業スタイルの研究、相互授業見学による授業力の向上、公開授業の実施、ICT活用を推進し、「魅力ある授業、興味関心をかきたてられる授業、学びの喜びが散りばめられた授業、生徒が主体的に学ぶ授業」を展開し、学びの質を高める。

イ 「パッケージ研修」等、様々な研修機会を積極的に取り入れる。

ウ ICT環境の整備に努め、ICTを活用した授業を推進し、魅力ある授業をつくる。

(2) 基礎学力を落とさない取り組み、個に応じた進路指導により、個々の生徒の進路実現をめざす。

ア キャリア教育計画に基づき、キャリア教育の充実を図る。

イ データ分析により個々の生徒の現状や課題を把握し、組織的に適切な進路指導ができる体制を整える。

ウ 補習や講習の充実、進路カウンセリング体制の強化により、個に応じた進路指導の推進を図る。

エ 自学自習の習慣を確立させる。

(3) 資格取得を積極的に推進する。

2 自尊感情、自己肯定感をはぐくみ、豊かな人間性を育てる

(1) 学校行事や部活動を通じて様々な人とかわりながら物事を成し遂げる調整力やコミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。

ア 生徒会活動、学校行事、部活動などにおける生徒の主体的な取り組みを支援し、帰属意識を高める。

(2) 共生教育を推進し、「ともに学び、ともに育つ」をスローガンに、生徒も教職員も共に育つ教育を実践する。

(3) 人権学習の充実を図り、互いの違いを認め合える豊かな心を育む。

(4) 総合学科の特色を生かし、地域交流、国際交流等を推進し、生徒の自己肯定感、自尊感情を育む。

(5) 社会貢献できる体制、自主的に学ぼうとする意欲をかなえる体制を整備する。

3 安心・安全な学校づくり

(1) 授業規律の確立、一丸となった生徒指導、校内美化・清掃の充実、あいさつ、言葉かけの励行など、本校がこれまで実践してきた実践を今後も継続し、安心して過ごせる雰囲気維持する。

(2) 教育相談や人権教育体制を充実し、いじめ防止に取組み、安心して学校生活を送れるよう支援する。

(3) 広報活動を充実し、地域や保護者から信頼される「開かれた学校」づくりを行う。

(4) 実践的な危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制の整備を図り、自らの命を守るために行動できる態度を育てる。

ア 老朽化した施設の点検・確認を、校内の危険個所の改修をすすめる。

イ 生徒が最も長い時間を過ごす教室内の安全確保の観点から、入り口扉のガラスの透明化を行う。

4 効率的な学校運営体制の構築

(1) 学校全体として目標を共有し、スピード感を持って様々な課題を発見、対応、改善できる組織として再構築する。

(2) 学校教育の全体像を視覚化し、共通認識を深め、それぞれの取組みの意義を理解し実施できるようにする。

(3) ICTを活用した情報共有体制を整え、業務の引継ぎ、情報の共有化を行い、業務の効率化を行う。

(4) OJTを充実させ、「学び続ける教員集団」をつくり、学校運営の中核を担う「ミドルリーダー」を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・年度当初から「わかる授業」をめざし、アクティブラーニング導入を推進してきた。数名の先生方が様々な形で取組みを行っているが、継続的に推進を図る。</p> <p>全体としては「意見を発表する」「体験的に学ぶ」などの項目についての評価はあまり高くない結果であった。次年度も言語活動を取り入れた授業や体験的に学ぶ機会を取り入れた授業の推進を行う。</p> <p>・1,2年生において、緊急避難時の行動についての理解ができていないことがわかった。訓練の方法、周知の方法の見直しをすすめる。</p> <p>・LD(産業社会と人間)の授業の取組みもあり、キャリア教育や進路指導についての評価は高かった。</p> <p>・H25 アンケートでは教育相談についての周知があまりできていない結果であった。今年度は「教育相談だより」を定期的に発行するなど情報発信に努めた結果、生徒の認識、理解の面で成果がみられた。</p>	<p>第1回 (6/25)</p> <p>○授業力向上の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互の授業見学がしやすくなるよう、工夫が必要である。 ・授業アンケートの生徒満足度の高い先生に模擬授業の形で職員対象に授業をしてもらうというのもよい刺激になると思う。 ・中間層の生徒の学力向上が大きな課題ではないか。先生方で授業方法等検討をすすめ、学力向上につなげてほしい。 <p>第2回 (10/1)</p> <p>○千里青雲高校の良さについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青雲Pの活動など、自主的に授業力向上に向けて努力されていることはすばらしい。「千里青雲に行けばこんなことができる」とPRするチャンス。入試改革に向けて対応を急いでほしい。 ・遅刻の少なさ、あいさつが気持ちよくできることは大きな特徴。授業改善の取組みやONE DAY TRIP など素晴らしい取組みがある。しっかりアピールするべきだ。 <p>第3回 (2/10)</p> <p>○情報発信としてのHPの有効活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新が毎日されないと、アクセス数は少なくなる。メールマガジンと連動させる、生徒の記事を載せる、「今日一枚」など、小さなことでもよいので毎日何かを発信するなど、こまめな対応が必要となる。 <p>○学校教育自己診断結果について</p> <p>学校の規律指導は緩めないでほしい。保護者は支持しているし、生徒も学年進行に従って理解を示している。社会人としての基礎的な資質の育成に必要であると思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「確かな学力」の育成	(1) 授業力の向上 総合学科としての特色づくり (2) 個に応じた進路指導	ア 校内研修の実施 イ 他校の先進的な取組み、公開授業等への研修参加を行い、様々な授業形態について研鑽を深める。 ウ ICTを活用した授業についての教員研修を実施し、授業におけるICT活用を推進する。 エ 校内授業見学(教員相互の授業見学)を実施し、相互の授業力向上に取組む。 オ 1回の授業アンケート結果を生かし、2回目の授業アンケートに反映させ、授業改善を行う。 ア 3年間のキャリア教育計画を作成し、教職員間で共有する。 イ データ分析に基づいた進路カウンセリングを実施し、適切な進路指導を行う。 ウ 家庭学習時間を増加する取組みを行い、学力の定着を図る。 エ SS道場、勉強合宿、大勉強会の実施、各種講習の実施	(1) ア 1回以上 イ 外部研修参加者 20名以上 ウ 研修回数1回/人以上 エ ひとり1回以上見学 オ 学校教育自己診断の関係項目評価の満足度50%⇒70%以上 (2) ア 3年間のキャリア教育の作成 イ 2年生全員との個別の進路カウンセリングの実施、3年学年団と進路指導部による個別の進路指導の実施 ウ 家庭学習時間 平常時1時間、定期考査時2時間以上の学習時間のある生徒50%以上 エ 参加人数の1割増	(1) ア 第1回5/23、第2回11/4実施、第3回2/5(◎) イ 管外8名、管内7名20名には及ばなかったが、研修で多くの成果を持ち帰った。(△) ・授業の様子のVTR作成、職員室で放映 ・研修講師として、来校いただくことの実現 ウ 校内では実施できなかったが、校外での研修に3名派遣した。校内ICTの環境整備が急務。(△) エ 2学期より1人1回以上を目標に実施中であるが、本年度については十分ではない。(△) オ 結果とともに「授業アンケートの見方」「振り返りシート」を配付し、自己分析により授業改善をめざしている。校内公開研究授業の実施、職員ミーティングの実施と、授業改革への動きはできつつある。(△) (2) ア 3学期に入り検討を始めているが、検討中。次年度も課題として引き継ぎたい。 イ 1、2年生全員の個別カウンセリングを実施。丁寧な進路指導ができている。(◎) ウ 1年は独自に時間管理の取組み、2年はMORE30と題して、30分学習時間を増やそうという取り組みを行っている。指標の達成はできなかったが、他の教育機関の指標をみると、学習をほとんどしないという生徒は減少している。3年生の自習室利用の増加、進路実績の向上など、一定の成果が見られた。(△) エ 夏の勉強合宿参加72名(H2538名)(◎)
豊かな人間性を育てる	(1) コミュニケーション力、人間関係力の育成 (2) 共生推進教育の推進 (3) 人権教育の充実 (4) 総合学科の特色を生かした学習の充実 (5) 自主的な活動を通して学ぶ機会の整備	(1) ア 生徒が主体的に活動できる行事の充実やクラブ加入を推進し、帰属意識を高める。 (2) フレンド通信を発行し、共生推進教育についての情報の共有化を図る。 (3) 生徒対象及び教職員対象の人権研修の実施 (4) 高大連携、地域連携による授業や「ONE DAY TRIP」など、特色ある取組みの推進 (5) ボランティア登録制の組織作り	(1) ア 学校行事についての学校教育自己診断満足度50%以上 クラブ加入率80%以上 (2) 通信の発行10回以上、学校教育自己診断の肯定率75%以上 (3) 各学年1回の研修の実施 教職員対象の研修を1回以上実施 (4) 各1回以上の実施、学校教育自己診断、授業アンケートの関連項目の満足度 (5) ボランティア登録組織の整備	(1) クラブ加入は1年生が90%となり、80%を達成(○) 満足度(1年48%, 2年49%, 3年62%) (◎) (2) 3月末現在、11号まで発行(○) (3) ・「共生の大切さを学ぶ授業や行事が多い」については、平均59%であった。 1年) 身体障がい者について2年) 沖縄(伊江島)の歴史3年) デートDV(11/6)を実施できた。(○) (4) ・関西外大と連携し「ONE DAY TRIP」9/27実施 ・藍野大学の高大連携講座を夏休み中に8回実施するなど、高大連携を推進できた。(◎) (5) フレンド通信(2年)による共生推進教室の生徒との交流を図ることができた。(○) ・東日本大震災ボランティアに希望者参加。2学期始業式で、全校生徒を前にボランティア報告会を行うなど、貴重な体験をさせることができた。(◎)
安心・安全な学校づくり	(1) 学習環境の整備 (2) 教育相談の充実 (3) 広報活動の推進 (4) 自らの命を守るために行動できる態度の育成	(1) ア 授業規律の確立、遅刻数の減少 イ 校内美化・清潔な学習環境の維持 (2) 教育相談体制の生徒(特に1年生)への周知 (3) 学校内外での学校説明会等の実施 (4) ア 現実に即した、有効性のある避難訓練の実施 実践的な危機管理マニュアルの作成 イ 教室入り口のガラスの一部をすりガラスから透明ガラスに交換し、危機管理体制を整備する。	(1) ア 遅刻数2000件 ⇒1500件以下 イ 学校教育自己診断、保護者評価 (2) 学校教育診断アンケート結果 (3) 中学校訪問数 60校以上 本校外の説明会 10回以上 (4) 避難訓練の実施1回以上 ア 安全点検2回以上 イ HR教室の扉ガラスの一部交換	(1) 3月末現在1763件。昨年度より低い水準で推移している。(○) 清潔な学習環境の整備については75%の肯定率であった。(○) (2) 「教育相談だより」の発行により、1年生への周知状況が改善した。(47%⇒53%) そう思うという強い肯定も5%⇒12%と伸びている。(○) (3) 中学校訪問は95校以上に及んだ。(◎) 校外説明会 21回実施(10月実施分含む)(◎) ・新規事業: ① 地域の南丘校区福祉委員会の協力を得て、本校で「人生の選択」として3回の講座を開催。 ② 豊中9中との交流事業として、テニス部と剣道部で合同練習を開始した。(◎) (4) ・避難訓練、安全点検は実施できた(○) ・透明ガラス化終了。自習室も透明化することができ、活用しやすくなった。(◎) ただし、学校教育自己診断結果から、緊急時の対応についての周知に課題が見られたので、次年度の課題としたい。

府立千里青雲高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">効率的な学校運営体制の構築</p>	<p>(1) 学校運営組織の見直し (2) 学校教育の全体像の視覚化 (3) ICTを活用した情報の共有化 (4) OJTの充実 ア 教員力向上のための研修の実施 イ 研修報告による情報の共有化を図る</p>	<p>(1) 分掌組織、委員会組織についての検討を行い、業務の効率化を図る。 (2) 学校教育の全体像を視覚化し、教職員による共有化し、共通理解を深める。 (3) ア これまでの業務の引継ぎ、情報の共有化を行い業務の継続性を維持する イ 「学校掲示板」を活用し、連絡簡便化、スピード化を図る。 (4) ア 経験の少ない教員の育成支援、研修の実施 イ 研修情報の共有化</p>	<p>(1) 分掌、委員会等の組織の整備 (2) 千里青雲高校の学校教育を視覚化する。 ア イン트라ネット情報の新ICTへの完全移行 イ ICTを活用した情報の共有 (4) ア OJTの実施10回以上 イ 研修報告会の実施</p>	<p>(1) 分掌・委員会の組織改革を提案し、来年度新体制で動き出すことが決定した (○) (2) 視覚化はまだ不十分。次年度の課題として引き継ぎたい。 (△) (3) ア 校内の情報はほぼ整理されつつある。年度末に引き継げるようデータの整理を依頼中。 (○) ・「学校掲示板」は活用できていない。来年度以降も方法の連絡の簡便化、会議のスリム化を図っていく。 (△) イ「スクールドライブ」を整備し、教職員が活用しやすい体制を整えている (○) (4) ア 現在5回実施。人権研修など、今後も実施予定。 (△) イ 情報共有のため、研修報告会を実施した。1回は2学期始業式にボランティア報告として、生徒を中心にして実施(3回)、職員会議で学校訪問報告を実施し、研修成果の共有化を図った。(○)</p>
--	---	--	--	--